

本院腫瘍外科の谷口氏による研究発表 欧州学会のニュースで紹介

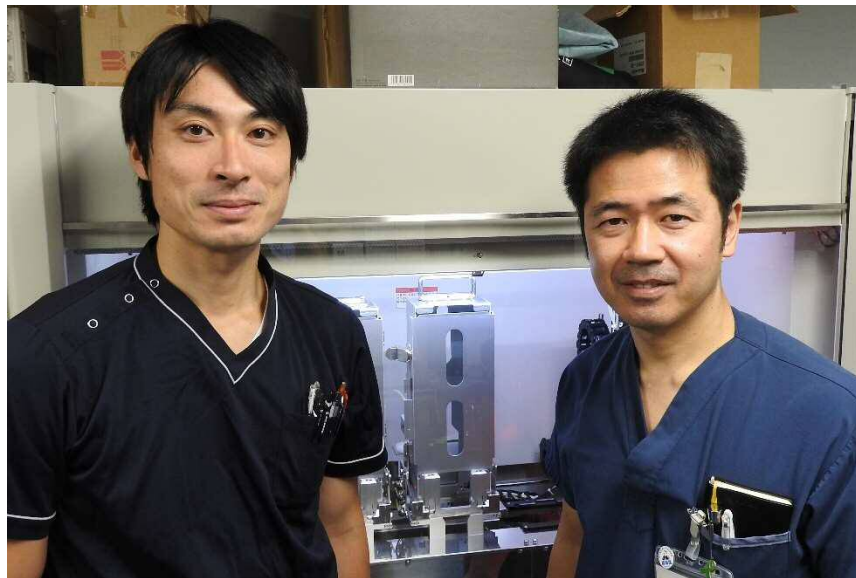
10月オーストリアで開催された国際学会にて、本院腫瘍外科の谷口大輔氏が発表した研究成果が同学会発行の「Daily News」で紹介されました。

(URL : <http://www.eacts.org/resources/newsletters/>)

この国際学会はヨーロッパ胸部外科学会で、今年31回目。掲載された研究内容はバイオ3Dプリンターを利用した気管再生についてです。本院腫瘍外科の谷口氏をはじめ、教授の永安武氏、講師の松本桂太郎氏らの研究グループではこれまでもバイオ3Dプリンティング技術を応用して細胞からの臓器再生を試み、国内外で発表しています。

今回の研究はラットの細胞のみを用いて気管様構造体を作製。これを近交系ラットの頸部気管に移植したところ、軟骨形成や血管新生などが確認されたということです。

谷口氏は「将来的には、自己細胞のみからなる人工気管作製につながる可能性が期待されます。最終的に臨床応用まで進めることが出来るよう、これからも真摯に頑張っていきます」と今後の研究に意欲を示しました。



研究発表した谷口氏（左）と松本氏